

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 373 回 研究会

日 時 令和 6 年 3 月 21 日(木) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 40 分
場 所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール (オンライン併用開催)
テーマ 「中小企業における脱炭素経営について」
講 師 信金中央金庫 地域創生推進部
上席審議役兼グリーンプロジェクト推進室長 広沢 将之氏

今回は、信金中央金庫より地域創生推進部 上席審議役 グリーンプロジェクト推進室長の広沢将之様を講師にお招きして、「中小企業における脱炭素経営について」をテーマにセミナーを開催しました。冒頭に芳仲会長より”温暖化が進むにつれ気候の変動は経営の課題として考えていかないといけない。今日はしっかりと勉強していただきたい”と開会のご挨拶を頂きました。

まず、脱炭素、カーボンニュートラルについてご説明をいただきました。基本的に脱炭素イコールカーボンニュートラルという捉え方でよいとのこと。温室効果ガスの排出量から森林等のガスの吸収量を引いてトータルでゼロにする考え方です。脱炭素化の動向ですが、2020 年 10 月に当時の菅総理が 2050 年脱炭素社会の実現を宣言しています。そして、2030 年度には温室効果ガスの削減目標・電源比率の見通しを明示しています。自然由来の再生可能エネルギーをいかにして国内で増やしていくかということです。今 20%を超えたあたりの再生可能エネルギーを 2030 年までに 36~38%にするために風力発電、太陽光発電を増やしており、そのための技術革新が新しい産業を育成しています。

企業における脱炭素化の取組のメリットは 6 つあり、取引剥落の回避やコスト削減といった「守り」の要素だけでなく、競争優位性の構築、知名度・認知度向上、金融機関からの融資獲得といった「攻め」の要素にもなり得るとのことです。そして脱炭素経営は、気候変動対策の視点を織り込んだ企業経営のことであり、近年では、気候変動対策が企業にとって経営上の重要課題となっています。脱炭素経営のためのステップは、①全社的な意識の統一、②現状把握、③目標・計画策定、④対応策の実行ということです。具体的に省エネお助け隊等の事例を交えてお話を頂きました。

我が国のエネルギー政策は大きく変わってきており、そして消費者の意識も変わってきています。いきなり変わることは難しいかもしれないが、問題意識を持つことで少しずつ新たな成長の糧として脱炭素化を進めていくということが大事ではないかということでした。

脱炭素経営は、会員の皆様の会社にとっても大変関心の高いテーマですので、講義が終つてからも、多くの質問が寄せられました。広沢先生、貴重なご講義をありがとうございました。

以 上



芳仲会長 ご挨拶



講師 信金中央金庫 地域創生推進部
上席審議役兼グリーンプロジェクト推進室長 広沢 将之氏